

はしがき

東北大学グローバルCOEプログラム「グローバル時代の男女共同参画と多文化共生 (Gender Equality and Multicultural Conviviality in the Age of Globalization)」(平成20年度社会科学分野／拠点リーダー辻村みよ子、国内連携機関・東京大学社会科学研究所)は、グローバル化が進行する世界で生じている諸問題を、男女共同参画と多文化共生の二つの観点から解明し、それらの知見を融合しながら解決策を提示することを目的としています。さらに、こうした問題への深い理解と有効な対応策を提示しうる若手研究者を育成することを最終的な目標としています(詳細は、<http://www.law.tohoku.ac.jp/gcoe>をご覧ください。なお、本GCOEは、東北大学21世紀COEプログラム「男女共同参画社会の法と政策」の成果を多文化共生の観点から発展させたものです)。

このGCOEプログラムの目的と目標を果たすために、学術的な研究成果を発表するjournalを発刊することとし、Gender Equality and Multicultural Conviviality(男女共同参画と多文化共生)の頭文字をとって、「GEMC journal」と名付けました。

GEMC journalは、原則として第一部と第二部に分かれます。第一部には、GEMC journal編集委員会から執筆を依頼した論文で、本プログラムの研究会報告をもとにした論文や事業推進担当者らの研究論文を掲載します。第二部には、若手研究者に業績を発表する機会を保障するために、査読雑誌と位置づけて投稿論文を掲載することとしました。本GCOEのテーマと関係する論文であれば、身分資格を問わずに投稿を認め、掲載可能性のある論文の著者には研究会での報告等をお願いして成果を共有します。

創刊号である本号では、第一部で月例研究会(2008年11月・12月開催)報告とプロジェクトの研究会(2009年1月開催)報告をもとにした論稿を掲載しました。第二部では、論文の査読にあたって、GEMC journal編集委員会内部に査読委員会を設けました。査読委員会は、広範囲の領域にわたる論文を査読するために、それぞれの論文と同じ分野の専門家に匿名で個別に評価を依頼し、その評価に基づいて厳正な査読を行いました。評価にご協力くださった内外の専門家の皆様に、この場を借りて厚く御礼を申し上げます。

グローバル化の進展に伴い、ジェンダー、ナショナリズム、コミュニティ、世代などが生み出す差異は、構造的にもつれ合って深刻な弊害を社会にもたらします。これらの弊害を克服し、多様な文化的価値が共存する社会を再構築する道を求めて、本GCOEは発足しました。その出発の年である2008年には、アメリカに発した金融危機がたちまちグローバル化して、世界を覆いました。課題は緊急でかつ困難ではありますが、本GCOEは知的な営為を重ねて、これらの課題に対応し、基礎工事となる確実な研究を目指します。GEMC journalも、その営為の努力の一つとして、意義のあるものにしたいと願っております。

2009年3月

東北大学グローバルCOE

「グローバル時代の男女共同参画と多文化共生」

GEMC journal編集委員会